No.２３
かんきょう新聞
2018年
9月発行
うみがめ課

海を漂うプラスチックのゴミ

海洋ゴミが、今世界的な問題となっています。なかでも自然に分解されないプラチックは、海に流れ込むと海中に蓄積され、環境の劣化だけでなく生態系への影響が大きく、今、特に問題となっています。

数年前、福津市の海岸に、餌と間違えてビニールの紐を、食べたウミガメが打ち上げられました。

福津市の海岸線は、二二キロメートルあり、ウミガメが上陸産卵する場所として知られています。この海岸線には、海流に乗って、様々な漂着物が、流れ着きます。中でもペットボトルやポリタンクなどのプラスチックのゴミは、後を絶ちません。

プラスチックが、開発されたのは一八六八年。日本で大量生産されるようになったのは、第二次世界大戦後のことです。これにより、人の暮らしは便利になり、以後、様々な分野でプラスチックは幅広く使われることとなりました。世界のプラスチックの生産量は、一九六四年から二〇一四年の五〇年で二〇倍以上に急増し、今後二〇年間でさらに倍増する見込みだといわれています。

▲肛門からビニール紐が出ているウミガメの死骸

あなたができることからはじめよう

深刻化するプラスチックのゴミ問題に、私たちはどう向き合っていったらいいのでしょうか。

現在、福津市の一人一日あたりのゴミの総排出量は、平成二九年度、八九一gとなっており、二年前に比べ減ってきています。また、分別ゴミの収集量は増加傾向にあり、回収品目であるプラスチックは、ペットボトル、発砲スチロール、発砲トレイ、プラスチック容器包装が再資源化されており、なかでもプラスチック容器包装の回収量は年々増えている状況です。また、市内の事業所（店舗）においてもレジ袋の有料化やマイバックを推進するなど、レジ袋削減に取り組んでいるところが増えてきています。

ゴミの減量に対する取り組みが、少しずつ広がりを見せている中で、「ポイ捨て」といわれる「不法投棄」が、福津市において増加傾向にあり、平成二八年度はおおよそ二トン車二一台分を回収しましたが、平成二九年度は、四台増え二五台分でした。

暮らしの中から出るゴミが決まった場所に捨てられていない現状があることが見えてきます。福津市は、これらの不法投棄に対して、啓発看板の設置や、監視パトロールの実施を行っていますが、なかなか不法投棄はなくならない現状です。プラスチックのゴミの問題も含め、一人ひとりのゴミに対し、自分のこととして考え、不法投棄をなくしていくことが、重要になってくると思います。

ハチドリのひとしずく
～いま、私にできること～

森が燃えていました。
森の生きものたちは、われ先にと逃げていきました。
でも、クリキンディという名のハチドリだけは
いったりきたり、くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは、　火の上に落としていきます。
動物たちがそれを見て　「そんなことをして、いったい何になるんだ？」
といって笑います。

クリキンディはこう答えました。
「私は私にできることをしているの！」

出展：「ハチドリのひとしずく」辻　信一監修　光文社